

県庁周辺エリアにかかる エリアコンセプトの検討

令和7年3月24日

富山県

対象エリア

富山駅周辺

- ◆ 北陸新幹線開通（2015年）や路面電車南北接続開業（2020年）を契機として、商業投資が活発に行われている
- ◆ 日常的に賑わいイベント活動が行われている



出所：とやま観光ナビ

県庁周辺エリア

- ◆ 富山駅と商店街地区の間に位置する
- ◆ 県庁や市役所が建ち並ぶ官庁街
- ◆ 県庁前公園や富山城址公園、松川などの緑や水辺の環境が充実している



商店街地区

- ◆ 古くからの商業エリアであり再開発事業による新陳代謝が積極的に行われている
- ◆ 飲食や学生シェアハウス、インキュベーションオフィスなど、若者文化が育まれている



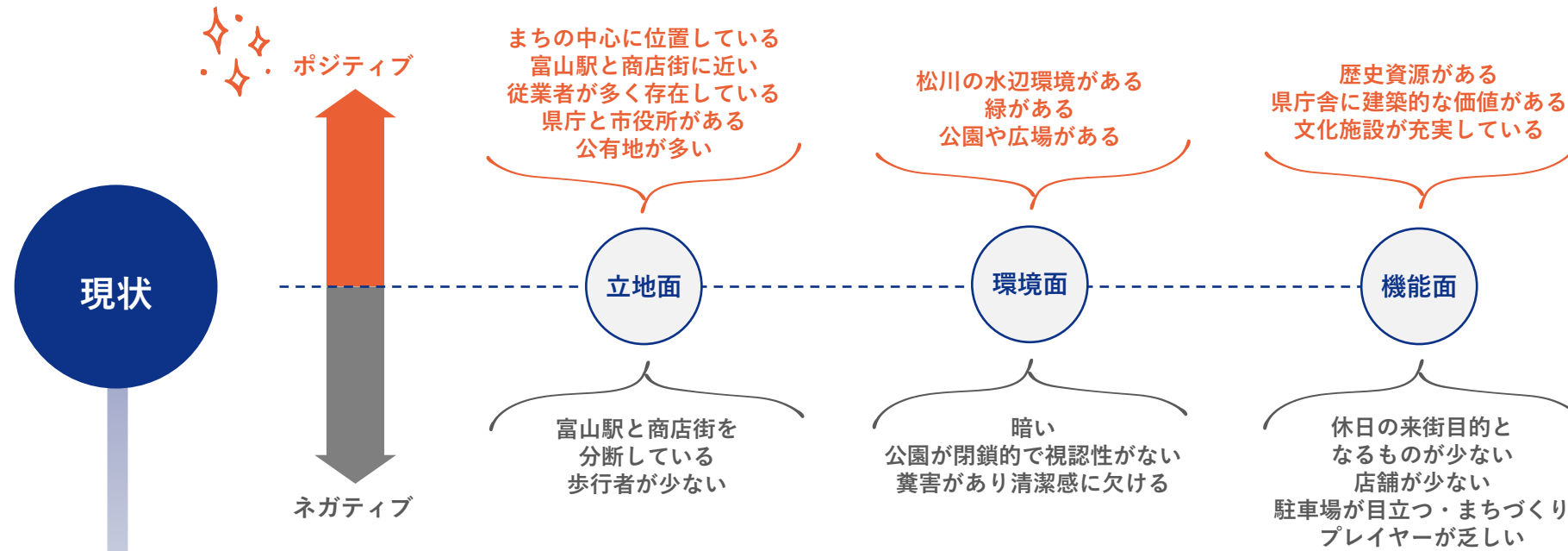
出所：HACHI HP

● 県庁周辺エリア

● 県庁周辺エリアの未来を考える際に念頭に置くエリア



県庁周辺エリアの現状と課題



●富山のまちの中心において歴史資源を持ち、水辺や公園空間を備えたエリアでありながら、その資源や環境を有効活用できていません。

●県庁と市役所がまちの中心で隣接している全国でも有数の官庁街であり、多くの行政職員やオフィスワーカーが存在するエリアですが、彼らや来街者にとって魅力的なエリアとなっていません。

●まちなかに広大な公有地を有していますが、活性化に向けたまちづくりの活動やプレイヤーが乏しい状態となっています。

3つのありたい姿

- 歴史からの示唆や現状と課題の分析、令和5年度に実施した県・富山市の若手職員や大学生を対象としたワークショップにおける議論をもとに、県庁周辺エリアの「3つのありたい姿」を描きました。

01

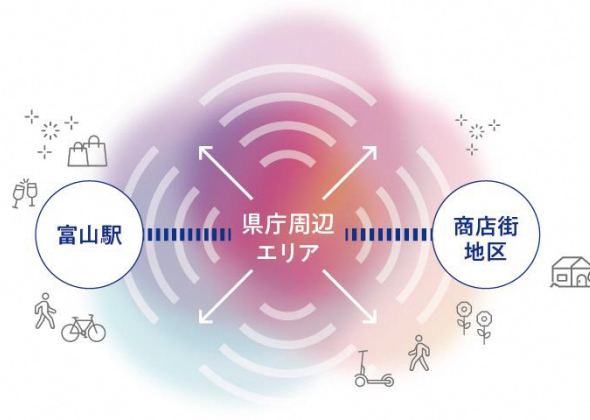
憩いとゆしみ
あなたの幸せ



歴史・水辺・緑を生かした憩いとゆしみの空間を形成する、訪れる人にとって「ウェルビーイング」なエリア

02

まちにつながりと
一体感を醸成する



周辺街区との連続性・回遊性を高め、まち全体ににぎわいの好循環をもたらすエリア

03

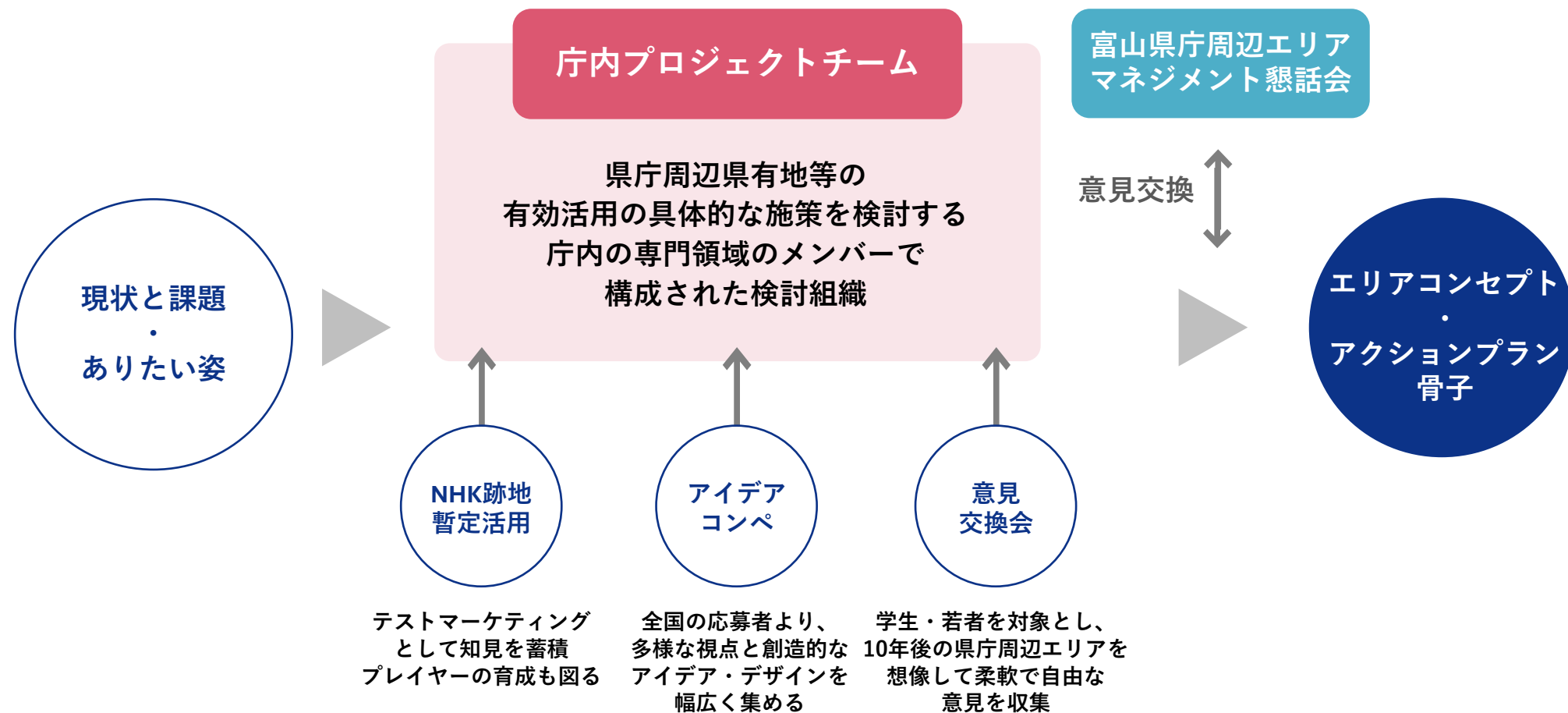
県全域に
付加価値を届ける



県内外の多様な人材が集まり産学官民連携が行われ、富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア

検討フロー

- 現状と課題、ありたい姿を踏まえて、庁内プロジェクトチームを中心に、エリアコンセプトやアクションプラン骨子を抽出しました。



NHK跡地の暫定活用

- 当エリアの本格活用までの間、暫定活用を通じて小さな変化を積み重ねていくことが求められます。
- 令和6年10月からの暫定活用では、これまであまり利用されていなかったイベント会場としてのポテンシャルを見出し、空間としての魅力向上策について意見を得ることができました。

目的と意義

- 今後の本格活用までの期間において、賑わいや憩いの空間を生み出し、エリアのまちづくりの変化の兆しを示すこと。
- 本格活用に向けたテストマーケティングとして知見を蓄積すること。
- エリアにおいて主体的に活動できるプレイヤーの育成と新たなコミュニティの醸成、さらに民間資金の呼び込みを目指すこと。

事例：松山市の「みんなのひろば」



出所：松山市

令和6年度実績と得られた意見

No.	実施日・イベント名	活用内容		来場者	意見
①	10/1(火) 「ケンチョウマルシェ」	県庁前公園	・ ケンチョウマルシェ	約200名	ポジティブ意見 <ul style="list-style-type: none"> NHK跡地での初めてのイベントには多くの家族連れが訪れ、このエリアに一定の需要があることが確認できた。 多種多様な活用が可能な場所であり、今後も利用したい。
		NHK跡地	・ 焚火		
②	11/3(日)~4(月祝) 「まちめぐりとやま」	県庁前公園	・ KIDS PARK (縁日5ブース、13店舗)	約3,000名	ネガティブ意見 <ul style="list-style-type: none"> 県庁前公園とNHK跡地の間には道路や木などがあり、一体感を作り出すのが難しかった。
			・ わんわんマルシェ (8ブース)	約1,000名	
		NHK跡地	・ 働く車展示10台	約3,000名	

①：「ケンチョウマルシェ」の様子

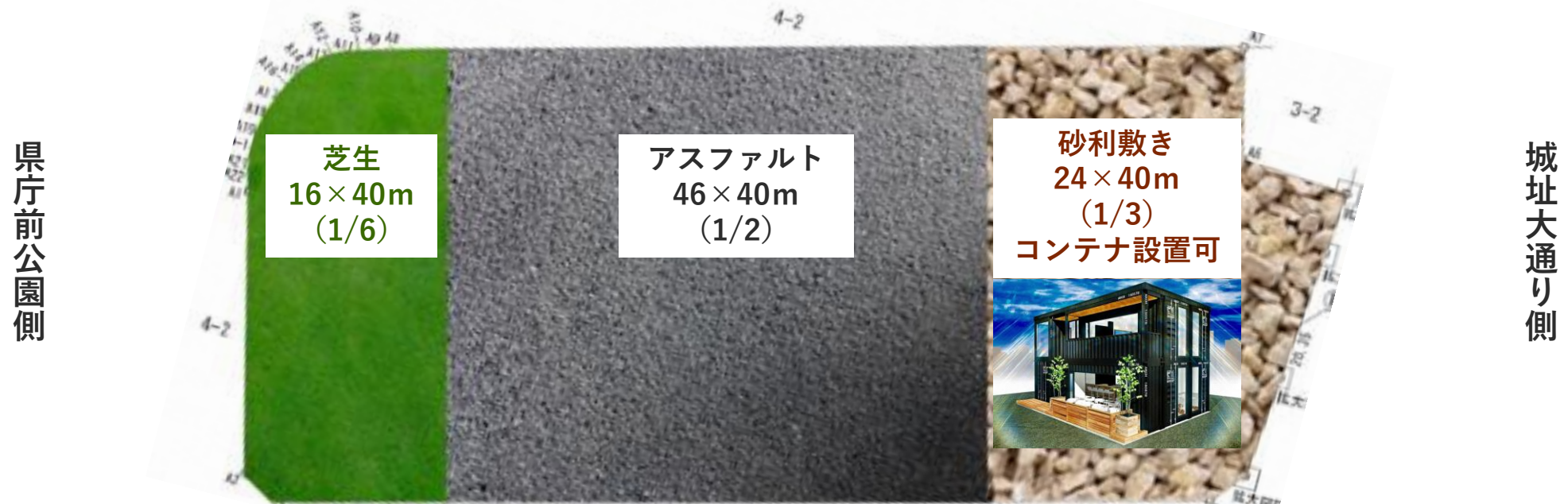


②：「まちめぐりとやま」の様子



(参考) NHK跡地の整備

- NHK跡地の暫定活用の促進に向けて、整備を行います。
- 県庁前公園との一体活用の観点から県庁前公園側1/6を天然芝とし、スポーツ等での活用を想定している中央部分1/2をアスファルトとし、チャレンジショップ等の暫定活用が期待できる城址大通り側1/3を砂利敷きとして整備します。



期待される主な効果

- 使い勝手が向上してより利用しやすくなり、イベント企画者などプレイヤーとの対話が活発化
- 「エリア一体的な整備と広場などの緑豊かな空間の創出」など、アイデアコンペで多く見られた提案の実現に向けた実験的取組みが活発化

アイデアコンペ

- アイデアコンペでは、全体的な空間や動線のデザイン、人々が時間を過ごす様子、想定される都市機能など、幅広い観点から多様な提案が集まりました。



アイデアコンペ

- 応募のあった64件の提案作品を分析し、特に重視されている観点として以下の8点が抽出されました。これにより、エリアコンセプトやアクションプラン骨子の検討に向けた示唆を得ることができました。

01 公園・広場としての一体化

NHK跡地や県庁前公園に留まらず、道路や駐車場を無くすまたは集約、再配置等を行うことにより、分断の無い一体的な空間を生み出す。



02 水辺・緑の創出

エリア全体を緑であふれた空間とする、噴水設備をリニューアルし、子どもが遊べる憩いの水辺空間として魅力向上させる。



03 南北の動線デザイン

富山駅と商店街地区の関係性を意識し、南北それぞれに対する動線やつなぎ方をデザインする、県庁前公園から本館を通り抜け、松川・城址公園へのスムーズな移動を可能とする。



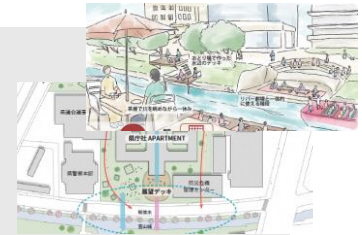
04 駐車場の配置

歩行者空間を充実させるため、エリアに散在している駐車場を集約化、または立体駐車場/地下駐車場を整備。



05 松川沿いの空間の魅力化

松川沿いの道路だけでなく、県庁舎南側の空間との一体性を生み、歩きやすい空間を生む。松川沿いにテラスやデッキ、カフェ等の飲食施設など、滞在性の高い空間・機能を創出する。



06 県庁舎本館の利活用

コワーキングスペースやホテル、イベントスペースとしての貸出、壁面の演出。公園と一体的に修景し文化財としての価値を高める。



07 全天候型の空間づくり

デザイン性のある屋根を公園や広場の中に設けて、天候の悪い日や日差しが強い日でも過ごしやすいエリアとする。



08 賑わい機能

マルシェやカフェテラスなど、日常的に人が集まる仕掛け、多様なイベントを受け入れ、昼夜を問わず楽しみが生まれる場とする。



アイデアコンペ

- 地元経済界からも協賛や寄付を通じて賛同や応援をいただきました。



株式会社FP不動産センター



サクラパックス株式会社



トヨタモビリティ富山

トヨタモビリティ富山株式会社



株式会社バロン

協賛企業 (50音順)



株式会社M G G

志道経営研究所



日本海ガス株式会社



株式会社北陸銀行



株式会社柿里



富山いすゞ自動車株式会社

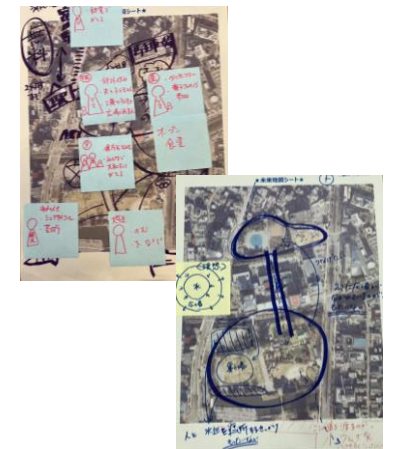
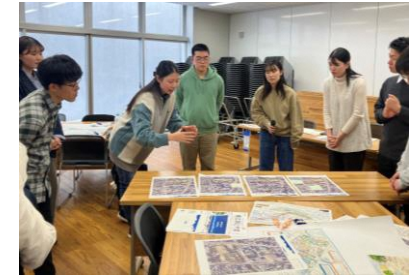


特定医療法人財団博仁会
横田記念病院

意見交換会

- 意見交換会では、若い世代による活発なコミュニケーションが図られ、様々な意見・アイデアを得ることができました。

主な意見の傾向	具体的な意見・アイデア	
① 南北につなげる	<ul style="list-style-type: none"> 富山駅～総曲輪まで歩きやすい動線を生み出す 県庁舎本館の中を誰もが通り抜けることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 総曲輪まで続くアーケード 県庁前公園と城址公園の2つの広場が分かれているのは勿体ないのでつなげたい
② 歩きたくなる 一体的なエリアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> エリア全体のコンセプトを統一したい デザイン性のある公園 車道を無くす 日当たりのよい空間とする 歩行者ファーストの空間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の集約 開放感のある空間 木を減らして芝生を増やす 城址大通りを横断しやすくする
③ 天候に左右されずに過ごせる	<ul style="list-style-type: none"> アーケードや地下道の整備 屋根のある空間 雨でも歩きたい 	<ul style="list-style-type: none"> 全天候型の遊び場 噴水周辺に屋根をかける こどもが雨の日でも遊べる
④ 松川べりや水辺を楽しめる	<ul style="list-style-type: none"> 松川沿いの歩道の拡幅 水辺空間と人が集まる空間を近づける シームレスな水際 	<ul style="list-style-type: none"> 松川の橋を増やす 松川沿いを歩行者専用道路化 噴水から松川まで水路等でつなげることで、水辺の動線を創出する
⑤ 県庁舎本館の開放	<ul style="list-style-type: none"> 県庁舎本館の中を誰もが通り抜けることができるようにする 歴史を感じられる建物として、多くの人が訪れやすい場所にする 	<ul style="list-style-type: none"> アート作品の展示 県の情報発信拠点 県職員の仕事の様子が見られる
⑥ 富山県やエリアのことを 新しく知ることができる	<ul style="list-style-type: none"> 県庁の取組をPRできる場所 まちづくりに興味を持つことができる場所 ポップアップストアがある 	<ul style="list-style-type: none"> 地元食材を楽しめる場所 富山らしく自然を活かす 歴史・文化・産業等を体験できる
⑦ 楽しみがあり 多様な人が集まる	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ観戦のライブビューイングや映画鑑賞 のんびりランチや運動を楽しめる アート作品やキャラクターの銅像等をエリア内に点在 オープンキッチン 	<ul style="list-style-type: none"> コワーキング 本を読んだり、休憩できる場所、カフェスペース 水路の手入れ等を通じた地域交流の場
⑧ こどもや若者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> 噴水周りに子どもが遊べるスペースをつくる 遊具を充実させる、遊び場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 学生や社会人が参加できることでまちづくりを衰退させない 若者がスポーツを楽しむ



方向性の整理

- ・ 庁内プロジェクトチームにおける議論をもとに、収集した意見を照合し、エリアコンセプトやアクションプラン骨子の検討の方向性を整理しました。

検討の方向性

現状の敷地区分に関わらず、エリアを一体化して歩きやすく滞在性の高い空間とするようなランドデザインが求められるのではないか。

まちなかにおける貴重なグリーンインフラとして、緑あふれる憩いの広場や公園を生み出すことで、エリア及びその周辺の魅力・価値向上に資するのではないか。

富山駅と商店街地区の中間に位置する立地の関係性から、当エリアが両地区をつなぐ役割を担い、動線や機能を配置していく必要があるのではないか。

歴史的な文脈を持ち、当エリアの貴重な水辺空間を提供する松川について、ハード・ソフト両面の取り組みが求められるのではないか。

登録有形文化財である県庁舎本館について、当エリアのランドマークとして、賑わいを創出する複合的な利活用を検討するべきではないか。



アイデアコンペ

▶ エリア全体の空間デザインの視点

- ① 公園・広場としての一体化
- ② 水辺・緑の創出
- ③ 南北の動線デザイン
- ④ 駐車場の配置

▶ 個別アセットの利活用の視点

- ⑤ 松川沿いの空間の魅力化
- ⑥ 県庁舎本館の利活用

▶ 機能としての魅力化の視点

- ⑦ 全天候型の空間づくり
- ⑧ 賑わい機能

意見交換会

① 南北につなげる

② 歩きたくなる
一体的なエリアデザイン

③ 天候に左右されずに過ごせる

④ 松川べりや水辺を楽しめる

⑤ 県庁舎本館の開放

⑥ 富山県やエリアのことを
新しく知ることができる

⑦ 楽しみがあり多様な人が集まる

⑧ こどもや若者にとっての魅力

エリアコンセプトの検討

- 前回（令和6年5月）開催された第2回富山県庁エリアマネジメント懇話会では、「エリアのコンセプトを固める方向で進めていくことが最適な道ではないか」との意見が出されました。
- かかる意見を受けて、これまでに得られた示唆やアイデアを基に懇話会と意見交換を行い、「エリアコンセプトブック」を共同で公表する運びとなりました。
- 県としては、このエリアコンセプトやありたい姿の実現に向けて、県庁周辺県有地等の有効活用を目指し、令和6～7年度にかけて基本構想を策定します。

エリアコンセプトブックの作成

現在検討中の基本構想の基礎となる部分を分かりやすく示し、県民や県内外の民間事業者の皆さまに関心を持っていただくためのコミュニケーションツールとして作成。



プレイヤーの発掘・育成と民間投資の呼び込み

- 令和6年度の取り組みの成果を活用して、プレイヤーの発掘・育成と民間投資の呼び込みを目指して動き出しています。

NHK跡地 暫定活用

■ 暫定活用の主催者等との対話・意見交換

→このエリアの需要が確認され、今後も活用したいとの声を得られたほか、必要な整備を検討

■ 芝生・アスファルト整備の実施

→整備後の活用に関する問い合わせが多数、スポーツ団体や食に関するイベントの実施団体などから、すでに5月～11月にかけて5件の活用希望あり

→新たに実施する数年程度の活用についても、民間事業者との対話を開始した

アイデア コンペ

■ 様々な媒体やネットワークを通じて積極的にPRを実施

→あまり例を見ない取り組みであったが、全国より64もの提案が寄せられ、地元経済界からも協賛や寄附を通じて賛同や応援をいただいた

→提案の中から「モビリティの活用」や「公園・広場を一体化させた賑わいの創出」については、現在、実現に向け事業者と対話を進めている

意見 交換会

■ 当日参加した学生・若者同士でつながりが生まれ、NHK跡地でのイベントを企画中

→後日、県の担当者が企画打ち合わせに参加し、自主的なチャレンジをサポート

今後の進め方

- 県は、富山市など関係者との対話を重ねながら、エリアコンセプトやありたい姿の実現に向けた具体策を策定し、実行に移します。
- まちづくりプレイヤーの発掘・育成および民間投資の呼び込みを進め、すべての主体が実行者となるよう伴走支援を行います。

取り組み内容	
基本構想の策定	<ul style="list-style-type: none">• アクションプランの令和8年度以降の実行に向け、ステークホルダーとの協議を行い、具体的な施策への落とし込みを行う。• 住民やプレイヤーとともにまちのあり方を考え、外部有識者を交えた検討会を実施し、基本構想を策定する。
エリアマネジメントの準備・試行	<ul style="list-style-type: none">• 産学官民の各主体と連携し、エリアに関わるコミュニケーションを図ることで、将来的なエリアマネジメントの実施に向けた仕組み・体制・役割の検討、および準備・試行に取り組む。
プレイヤーの発掘・育成	<ul style="list-style-type: none">• エリアの持続的な発展に向けて、暫定活用や実証事業等を通してまちづくりを推進するプレイヤーの発掘・育成を行い、コミュニティの醸成を図る。
民間との対話、投資の呼び込み	<ul style="list-style-type: none">• エリアコンセプトブックを活用し、民間事業者との対話を重ねてエリアへの関心を高め、民間投資の呼び込みを目指す。
県庁舎のあり方検討	<ul style="list-style-type: none">• 県庁舎のあり方について、多角的な視点から検討を行い、アクションプランとの整合性を確保する。

(参考) 県庁周辺県有地等の有効活用に関する検討会

- 目的：県庁周辺県有地等の有効活用について、外部有識者を交えた検討会にて意見をいただき、令和7年度中の基本構想策定を目指すもの。
- 開催予定：年3回開催（5月、9月、2月）を予定。
- メンバー：委員9名（県外4名、県内5名）および県、市などのオブザーバー参加を予定。

委員氏名	所属・役職	備考
齋藤 滋	富山大学 学長	エリアマネジメント懇話会委員
品川 祐一郎	富山商工会議所 副会頭	エリアマネジメント懇話会委員
難波 悠	東洋大学大学院 教授	エリアマネジメント懇話会委員
西村 幸夫	東京大学 名誉教授 國學院大學 観光まちづくり学部学部長	エリアマネジメント懇話会委員
牧田 和樹	富山経済同友会 代表幹事	エリアマネジメント懇話会委員
秋田 典子	千葉大学大学院 園芸学研究院教授	アイデアコンペ審査員
園田 聡	有限会社ハートビートプラン 代表取締役	アイデアコンペ審査員
水田 整	一般社団法人トヤマチミライ 代表理事	駅周辺まちづくり
京田 憲明	株式会社富山市民プラザ 代表取締役社長	中心商店街地区まちづくり